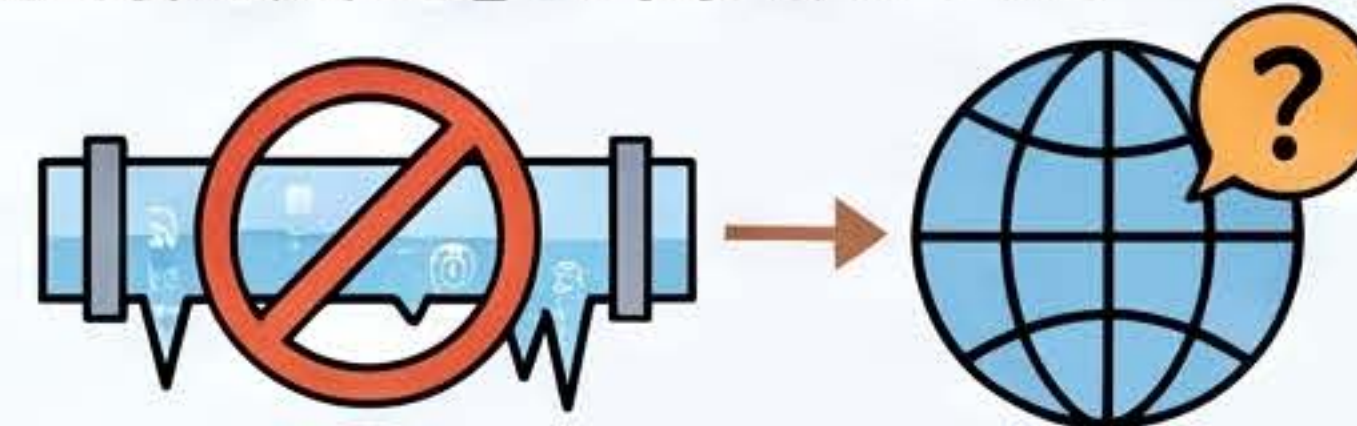


クラウド安全認証制度の全貌と知財・R&D業務へのインパクト

制度の三層構造と知財・R&Dへの3大影響

知財部門が講ずべき4フェーズの戦略的ロードマップ

R&Dデータ解析の凍結と「発明完成地」の衝突リスク



ゲノムや医療等の解析を未認証クラウドや懸念国に委託すると国の中止命令や二重規制の対象に。

知財SaaSにおける「IaaS認証非継承」と海外保守の死角



AWS等の基盤が認証済みでも、SaaSの海外オフショア保守ルートから未公開特許が漏えいする危険性。

(三層構造の定義)



特定国を名指しせず
サプライチェーンから実質排除。

懸念国系インフラを排除する「三層構造」の規律

事前届出・安全認証・中止命令の運動により、特定国を名指しせずサプライチェーンから実質排除。



【Phase 1 & 2】

機微データの棚卸しと知財SaaSのFOCI監査

R&Dデータの保管先・委託先を精査し、知財SaaSの資本関係や海外運用アクセス制限を点検。



【Phase 3】契約ひな形改定と暗号鍵の自社統制 (BYOK)

共同研究契約等に認証基盤指定を追加し、米国CLOUD Act対策として鍵を自社管理。



【Phase 4】

事前届出対応と「特定区域」適合による補償請求

特許非公開制度の適正管理措置として認証クラウドを活用し、移行費用等の損失補償請求体制を構築。

